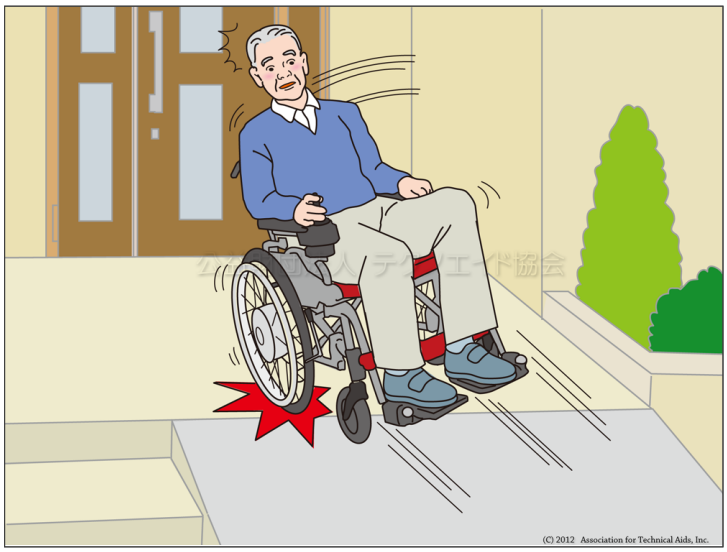
Case：15

ゆるやかなスロープをバックで上りきったとき、後方へ転倒しそうになる

場面の説明

転倒防止バーを折りたたんだままバックでスロープを上ったが、上りきったところで速度のコントロールがうまくいかず後方にバランスを崩した



利用シーン	移動 外出
主な利用場所	階段 玄関 段差・縁石
介護保険の種目	車いす
分類コード (CCTA95)	122127 (電動車いす)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

方向転換するスペースがないときなど、バックでスロープを上がることもありえますが、電動車いすはスロープを上りきり、平坦面に差し掛かると急加速をする場合があります。それに驚いて制動をかけると、後方にバランスを崩しやすくなります。このような危険を回避するために転倒防止バーが装備されていますので、常に正しい位置で利用することが大切です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：転倒防止バーを収納したままで利用していた
人：速度のコントロールに不慣れであった
環境：場所が狭い
環境：スロープの角度が急であった

Copyright 2025 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.